

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000374		
法人名	医療法人社団 松島内科		
事業所名	グループホームみのり1Fユニット		
所在地	小樽市緑1丁目16番14号		
自己評価作成日	2017年2月6日	評価結果市町村受理日	平成29年4月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0172000374-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成29年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療機関であり、入居者様の状態に変化があった際には適切に医療が受けられる。又、医療連携体制加算を算定しており、看護師に状態を継続的にみて頂くことで細かな対応ができるようにしており、看取り介護加算も算定しているためご本人・ご家族様の希望があれば最後の住まいとして看取りを行なう事も可能である。
また近隣のマッサージボランティアや薬局、商店の活用等あり、入居者様が地域の一人として暮らしていけるよう努め、避難訓練や運営推進会議などで消防機関や地域住民・町内会の皆さまにも参加を促し、ホーム内のことをより知って頂きながら、災害の際お互いに協力できるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鉄筋コンクリート造り3階建ての1・2階2ユニットの事業所で、バス停や商店街も近く、暮らしやすい環境に立地している。代表者が医師であることから、日常的な健康管理は基より最期まで暮らし続けられる場所として、利用者や家族の安心に繋がるよう、職員は知識や技術の習得に努めている。町内会とも良好な関係を構築しており、運営推進会議や避難訓練、行事を通しての交流等で理解と支援を得ている。外出行事は、家族の協力も得ながら行楽地や景勝地に出かけ、ホテルで昼食をとるなどで五感刺激を図っている。外出が困難な利用者には、出前を頼み趣を変えた食事時間にするなど、利用者本位の支援に取り組んでいる。職員間に於いても率直に意見を言い合える関係作りに努め、次年度に向け、「暖かくなったらドライブに行こう。」「自然災害想定避難訓練をしよう。」「メニューに天ぷらを加えよう。」などの企画を立て、実践に向けた取り組みに努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、事業所の理念を職員の目に付き易い場所に掲示し、共有して実践できるように努めている。	職員は法人理念を共有し、さらに独自の事業所理念と利用者本位の目標を策定してケアサービスで実践に努めている。管理者は、都度理念や方針の意義を職員に説明している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の商店、薬局、弁当屋を活用することで交流ができるよう努めている。またマッサージのボランティア等も来て頂き地域の方とも交流できる様に努めている。	地域の祭りには、職員は手伝い、利用者は子供神輿の披露で駐車場に訪れる子供達におやつやジュースを手渡すなど、昔ながらの習慣を楽しんでいる。音楽療法など各ボランティアの来訪もあり生活意欲に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	避難訓練や運営推進会議等で地域の方に来訪して頂くよう促しており、認知症の人の理解や支援の方法を地域の方々に理解を図っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、活動状況の報告をし、意見・要望を伺い、内容を検討させて頂きサービスの向上に活かせるように努めている。	会議は、町内会関係者、行政関係者、地域の知見者、家族の構成で年4回開催している。活動状況報告後に、事故・ヒヤリハット、防災等が話し合われ、意見や助言、情報を得ており、運営に活かすように努めている。家族の参加が十分ではない。	家族には、都度参加要請を行っているが出席には至っていない。今後、日時設定や議題の工夫、キーパーソン以外にも声かけを行うなど、継続しての取り組みを示しているので期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の案内や資料を提出しており、利用状況調査票を送付し情報の提供を行なっている。また、疑問などあった際に相談するよう取り組んでいる。	管理者は、事故報告書等の提出物や課題が生じたときは担当窓口を訪れ、意見や助言を得ている。空き情報や提出書類などは、電話、FAX、郵便でやり取りしている。実地指導や集団指導でも情報等を得ており、運営やケアに反映している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロアのミーティングと全体の会議を通し、入居者のケアに関する話し合いを行ない、作成した身体拘束マニュアルを誰でも閲覧できるように設置し身体拘束をしないケアの実践に努めている。	身体拘束や虐待をしないケアについてはマニュアルを整備し、法人研修での資料やニュースの事例を基に勉強会を行い、不適切な具体例とその弊害の理解に努めている。玄関は中から外に出られるが、外からはインターフォンで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防	可能な限り虐待防止等の研修に参加し、内部の研修でも取り組むように努めている。また、各ホールにマニュアルを設置し、いつでも確認できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は少ないが、研修等に参加するよう努めている。また研修に参加した後は職員へ周知し、活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご家族に内容を説明し、不安や疑問等があるかを伺い、理解・納得して頂くよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールへ苦情相談・ご意見箱を設置し、運営に反映できるよう努めている。また、ご家族様来訪の際、連絡を取った際にはコミュニケーションを図るよう努めている。	利用者の様子は、年4回発行の「みのり通信」や、面会、イベントでの家族来訪時、電話で伝えている。利用者や家族から意見を聞くことはあまり無いが、外出希望など出された意見は可能な限り受け止めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月フロアミーティング、全体会議を行ない、職員から意見を聞いている。また、日常的にコミュニケーションを図り、意見を聞けるような機会を設けている。	法人職員は会議等で度々来訪し、事業所の実情を把握している。職員は日常業務や会議で、業務やケアについて意見を述べており、管理者は、法人と相談しながら改善に向けて取り組んでいる。法人に専用車両の配車要望を伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月2回各部署の管理者等が集まり、それぞれの職員の状況、勤務状態を伝え、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	概ね毎月内部研修を計画しており、参加できるよう努めている。また外部研修の案内があった際には職員も参加できるよう職員へ通知し、参加できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催の研修や新年会等に参加し、ネットワーク作り、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始段階で本人が困っていること、不安・要望に耳を傾けながら本人の安心を確保するため関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始段階で家族等が困っていること、不安・要望に傾聴しながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始段階で本人と家族等が一番必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と本人は暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は本人と家族の絆を大切にしながら家族と共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	散歩がてら、馴染みの店で買い物や美容室へ同行しているが、墓参りなど個別の外出は家族の支援を得ている。昔の話題や写真、歌など利用者と共有するなど、生活歴を大切にしたい支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人一人が孤立しないよう利用者同士が関わり合い、支え合えるような関係作りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後でも必要に応じ相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや暮らし方の希望・意向の把握に努めている。困難な場合は本人本位を検討している。	要望を詳細に伝える利用者もいるが、殆どは表わすことが少なく、家族の情報や利用者の表情、動作から思いを汲み取り、笑顔が見られるような支援になるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴・馴染みの暮らし方・生活環境・これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方・心身の状態・出来る事・出来ない事等の現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランは、3ヵ月毎の更新時と状態変化時に、あらためて支援内容を検討している。利用者や家族の生活への意向を優先に、看護職員を含む職員全員の意見を反映して作成している。ケアプランと介護記録は連動している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫をケア記録に記入し職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況、その時々ニーズに対応し既存のサービスに捉われない柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人の暮らしを支えている地域資源を把握し本人が心身の能力を発揮しながら安全で豊かな生活を楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人・家族の意向を大切に納得が得られたかかりつけ医との良好な関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している。	入所以前のかかりつけ医への受診は基本的に家族支援だが、困難な場合は職員が同行している。協力医による月2回の往診と看護職員の日常的な健康管理があり、健康状態は医療送りノートで共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常の関わりの中で知り得た情報や気づきを職場内の看護師等に伝え、相談し適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、安心して治療できるようにまたできるだけ早期に退院できるように病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について早い段階から本人・家族と話し合い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に対する指針は、契約時の書類で説明して同意を得ている。重篤時には、医療関係者や家族と方針を共有し、法人研修や看護職員から得た知識や技術を看取りケアに活かせるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル等を作成し事故が起きた際に迅速な対応ができる様に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練や講習会等を行なっている。また、防災マニュアル・防災自己点検表を作成している。地域住民、町内会とも訓練に参加して頂き連携に努めている。	消防署や地域住民の協力を得て、年2回日中、夜間想定避難訓練を実施している。内部研修で市の防災担当者による地震災害時の講話を聞いたり、市主催の防災訓練に参加するなど非常時に備えている。	作成した自然災害マニュアルを基に避難訓練を計画しているので、その実行と地域との連携強化や備蓄品の充実に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けや対応に配慮して同性介助を希望される場合は可能なかぎり対応するよう努めている。	職員は接遇研修への参加や役職者から指導を受け正しい接遇のあり方を学んでいる。個人関連の書類は適切に管理し、介護記録の記載時も利用者の目に触れないよう注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を伺い自己決定ができるよう促している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の流れはあるものの、可能な限り本人のペースを大切に希望に添うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	用意されたものをそのまま着られる入居者様が多いが、可能な限り好みに合わせた整髪や服装ができるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューをホールに掲示し入居者様にメニューが分かり楽しみにして頂けるように努めている。また、個々の能力に応じておしぼり等の準備をして頂いている。	系列3事業所の合同メニューを基に、嗜好に合わせ代替食の用意や、リクエストがあれば次回のメニューで対応している。昼食と夕食のメニューの掲示は会話の糸口になっている。外食や出前、弁当等で食に変化を付けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は1日を通してチェックしている。食事の提供についてはその人に合わせた食事形態で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が声掛けをし見守り介助を行ない、口腔内の清潔を保つよう努めている。また、就寝前に義歯を外して消毒している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を使用しており、個々の排泄パターンを把握しトイレで排泄出来るように努めている。尿意が無い場合は時間でトイレ誘導している。	2割の利用者は自力でトイレに行っているが、他の利用者は職員の声かけや誘導でトイレでの排泄に繋げている。夜間のみポータブルトイレを使用する利用者もいる。衛生用品は必要最低限とし、利用者の状態に合わせた対応は失敗の軽減になっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに提供したり、野菜ジュース・乳酸菌飲料を提供する等行なっている。また個々に応じた運動を働きかけ予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日・時間を全入居者様個々に合わせることは出来ませんが、希望は聞くようにしている。また、行事等で入られない時は説明して振り替えている。	入浴は週2回を基本としているが、利用者や業務の状態によっては柔軟に対応している。介護度の高さもあり、利用者の3割はシャワー浴や清拭で清潔を保持している。入浴剤やユズの香りを楽しみながらゆっくり入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせて休みたい時に休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の薬情をファイルで管理し、職員がいつでも閲覧できる様にしている。ただし副作用については全て理解しているとは言い難い。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持ってもらっている入居者様もいます。また楽しく過ごせるように体操やレクリエーションを行なっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや外出レクを企画しても普段から希望に添っていつでも出掛けられることは難しい。夏は玄関先は近所までは出掛けるが冬は特に難しい。	全員が日常的に外出することは困難だが、周辺の散歩や買い物、玄関先での外気浴、駐車場でのお茶会、さらにドライブを兼ね花見や景勝地を訪れるなど、気分転換に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方は1名いるが、支払いの時は確認している。殆どが家族様管理・施設管理である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があった場合は、電話は番号を押すのを代わりに行う等の支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間のホールには季節や行事等に合わせた空間づくりをレクリエーションで入居者様と職員と一緒にしない、季節感を取り入れている。	利用者と制作したひな祭りや桜の切り絵が飾られている居間には、食卓の他に利用者が寛げるようソファコーナーを設置している。採光や温湿度等にも配慮があり、壁面には行事での楽しい様子が窺える写真が飾られ、家庭的雰囲気を感じ出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りでゆっくり出来る程ホール内は広くは無いが、気の合う方々同士が話をして過ごせるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使用していた物も含めてご家族様が用意され、ご家族と本人を中心に居心地良く生活して頂けるよう配慮している。	居室にはクローゼット、ベット、洗面台、ナースコール、温湿度計が備えつけられ、生活しやすい環境になっている。室内は全体的にすっきりとしており、馴染みの整理タンスやテーブルセット、飾り物等が安全に配慮して置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	大きな表記の表れを各部屋やトイレなどには目線に合わせて分かりやすくしている。また、洗濯物を干したり、たたんだり、自立した生活を可能な限り継続できるよう努めている。		